

令和3年度第1回新宿区消防団運営委員会実施結果

開催日時	<p>1 令和4年2月6日以降、書面により各委員に対して説明（郵送、電話、メール等により対応）</p> <p>2 令和4年2、3月中に意見集約</p> <p>3 令和4年5月中 委員長への結果報告</p> <p>4 令和4年5月中 各委員への結果報告</p> <p>5 令和4年6月 区HPへの掲載</p>
開催場所	各委員の指定する場所等
出席者	<p>委員長 吉住 健一 新宿区長</p> <p>委員（敬称略）</p> <p>森口 つかさ（都議会議員）、大山 とも子（都議会議員）</p> <p>吉住 はるお（都議会議員）、古城 まさお（都議会議員）</p> <p>松田 浩一（前危機管理担当部長）</p> <p>佐原 たけし（区議会議員）、渡辺 みちたか（区議会議員）</p> <p>木もと ひろゆき（区議会議員）、川村 のりあき（区議会議員）</p> <p>久保 こうすけ（区議会議員）、のづ ケン（区議会議員）</p> <p>佐藤 睦（四谷消防署長）、宇田川 崇（前牛込消防署長）</p> <p>増田 哲生（前新宿消防署長）加古 三稚（前四谷消防団長）</p> <p>原田 義明（牛込消防団長）、岩田 千明（前新宿消防団長）</p>
諮問事項	「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」
審議方法	書面開催（事務局（担当消防署）が各委員に対し、区より資料を郵送、諮問事項などの概要や事務局案等を電話等により説明した後、各委員から意見等を頂き、当該意見等に対して回答した。）
配布資料 （別添）	<p>1 小池都知事からの諮問書類</p> <p>2 新宿区消防団運営委員会名簿</p> <p>3 報告</p> <p>「水災時において消防団員が効果的に活動する方策はいかにあるべきか」 （資料1）</p> <p>4 審議</p> <p>(1) 特別区消防団運営委員会への諮問事項及び検討事項について （資料2）</p> <p>(2) 諮問に対する検討の方向性について（資料2）</p> <p>5 添付資料</p> <p>別紙1から4（資料2関係）</p>
次回開催	令和4年7月26日（火）
配布資料、1、報告の内容に関する対応について	
事務局	「令和2年度答申を踏まえた対応方針の結果について」（資料1）に関する各委員からの意見等は、消防団運営委員会を主管する東京消防庁防災部消防

	<p>団課に情報提供するとともに、各消防団においてより効果的に運用していくための参考とさせていただきます。</p>
<p>配布資料、2、審議の内容に関する意見等及び事務局回答</p>	
久保委員	<p>訓練場所については、新宿区と消防署が連携し確保に努めていただきたい。また、他の分団が使用している訓練場所が使用できるよう、新宿区と消防署が調整を図っていただきたい。</p>
事務局	<p>今までも、新宿区と消防署が連携して訓練場所の確保に努めております。引き続き、新宿区と消防署が緊密に連携を図り、訓練場所の確保に努めてまいります。</p>
久保委員	<p>各種研修については、新入団員が必ず受講しなければならないような研修を設けるなど、充実を図っていただきたい。また、消防学校主導より消防署主導が良いと考える。</p>
事務局	<p>消防署では1年に1回の新入団員の研修を実施しておりますが、より充実した研修となるよう努めてまいります。</p>
久保委員	<p>新入団員確保は、年に一度でもよいから、消防少年団と消防団が共に訓練をするような環境を整え、消防少年団の延長のような形で消防団への入団のきっかけ作りをすべきと考える。</p>
事務局	<p>消防少年団活動への消防団の参加は、将来の団員確保に重要な機会であると認識しています。</p> <p>区内3署では、消防少年団指導者として数名の消防団員が活動しております。指導者を中心に各署の実情に併せ、消防団が参加する消防少年団活動を積極的に推進してまいります。</p>
久保委員	<p>各種資機材配置前に傷みの激しい資機材などがいないか、アンケート調査などにより消防団員に事前調査をしていただき、適切に配置していただきたい。</p>
事務局	<p>傷みの激しい資器材に関しては、消防団員からの要望を受け「修繕」で対応しておりますが、今後も速やかに対応してまいります。</p>
木もと委員	<p>水災時の教育訓練及び安全管理の対応方針の中に、e-ラーニングシステムコンテンツの充実とある。別紙2 デジタル環境の整備状況によれば、e-ラーニング登録率が100%となっているが、まだまだ、しっかりと活用されていない状況にある。水災時だけの課題ではないが、コンテンツの充実と共にコンテンツ活用を伴う訓練等も充実していくべきと考える。</p>
事務局	<p>e-ラーニングシステムには、災害活動要領などが閲覧できる自己学習用コンテンツや研修の事前学習に活用できる研修用コンテンツがあります。今後、主管課に更なるコンテンツの充実を要望していくとともに、コンテンツを効果的に活用した訓練を推進してまいります。</p>
木もと委員	<p>検討の方向性にデジタル環境の充実がある。別紙2 デジタル環境の整備状況にあるようにモバイルルーターが配備されているが、通信量の上限がある状況である。分団格納庫へのWi-Fi環境の更なる拡充なども今後、検討していく必要があるのではないか。</p>

事務局	現在のモバイルルーターは月50GBの契約で、一般的に使用するには十分な容量だと思われます。今後の使用実態を踏まえ、必要に応じて主管課へ要望してまいります。
木もと委員	検討の方向性において、新たな資機材整備による負担軽減とあります。整備については進めるべきと思いますが、同時に新資機材を使用した訓練も必要不可欠だと思います。
事務局	新たな資機材が配置された場合は、各消防団の実情に応じて適宜、取扱要領の教養や訓練を行ってまいります。